

事業の実施状況等について

【都島区】 (受託者等: 株式会社KEGキャリア・アカデミー)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目		
自律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメール)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	都島区は、JR京橋駅や地下鉄都島駅を中心に商店や企業が集中しており、平日昼間人口が一部に集中している。ミナミ、キタへのアクセスもよく、都島駅から徒歩圏内に位置する大型マンション建設地帯はここ20年ほど人口増加が進んでいる。 京橋駅周辺、地下鉄都島駅周辺は戸建てが少なく、集合住宅の割合が高くなっている。新規入居者が多く、近所付き合いの少ないことを望んでいる世帯や、単身住宅も多く、地域活動に関心のない世帯や世代の流入率が多くなっている。北部地域、東部地域には昔ながらの住宅や店舗が並び、地域活動も盛んに行われているが、高齢化が進んでいるため、年配者が地域活動を行っている。各地域とも概ね団結力が強く各種団体同士の連携ができている反面、相変わらず連合振興町会の影響が強く、地活協は補助金を貰うための団体という考え方をしている。従来型の地域活動にとどまることなく、地域課題の可視化と共有を行い事業の見直しや新事業を立ち上げることで、効果的な地域活動を行うことが重要である。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	30～50代の活力のある世代が人口比率としては高いものの、地活協で活躍する地域はあまり見られない。地活協発足時からの流れで、あくまでも協力やお手伝い程度の役割となっており、地域活動を主導して行うことが難しくなっている。現在の主体世代の声が大きく、意見も強く、新規参入の居場所が狭くなっているのが現状である。若い世代の取り込みは若い世代が行えることを目指し、少しずつ状態は軟化しているものの、まだまだフォローアップが必要となっている。各校区PTAや青少年指導委員、子ども会などの団体に所属する若年層にアプローチを掛けるなど、新たな担い手発見に向けてサポートしていくことが重要である。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	地活協発足時より、「地活協＝団体」という意識が低いため、規約が重視されてこなかった。現在では、区役所、中間支援組織の支援により、徐々に規約の見直しや会議手法、精算ルール、IT活用などの見える化を図り、少しずつ意識が高まってきている。都島まちづくりセンターでは、IT活用やマニュアル作成をこの数年支援してきており、一定の成果が見えてきている。定期的な会議の開催や広報の手法などを統一し、より深めた運営を目指している地域も増えてきている。適正な会議方法についての問い合わせも増えてきているなど、自律的運営に向けた意識が高まっている。他方、地域によって従来の手法にこだわった考え方によって地域運営が行われることも見受けられるため、個別に丁寧なサポートが必要である。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※) Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
 Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士との連携・協働【外部との連携】 ・Ⅱ 地域公共人材の活用
 Ⅲ・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
	○		○	<p>【会計支援】</p> <p>補助金の適正な運用と事務の効率化、会計事務の適正化と透明化を目的とした支援を行う。マニュアルの活用によって、制度理解を深め、効率的な事務処理提案を行う。</p> <p>運営委員会での領収書の正しい取り方や効果検証に関する注意などの一斉周知、事業毎にマニュアルを作成するなどの支援を行う。</p> <p>決算書や財産目録の整備等、包括外部監事指摘事項の改善に向けた支援を行う。</p>	<p>物品購入の注意点、効果検証のレクチャー、源泉徴収手続きなど、前年度の誤りのポイントと併せて地域ごとに指導を行った。</p> <p>・7/3(火)桜宮地域「夏祭り」、物品購入について指導 ・7/27(金)淀川地域「盆踊り」、事業変更について指導 ・8/17(金)桜宮地域「盆踊り」効果検証について指導 ・8/28(火)淀川地域「食事サービス」補助金運用の指導など</p> <p>区役所と連携して決算書の作成等にかかる説明を実施。</p>	<p>運営委員会や、事業説明会に積極的に参加し、会計事務の指導を行うことで、事務効率の向上に繋がった。また、まちづくりセンターの認知度を高めることにもなり、問い合わせも増えてきている。</p> <p>各地域に説明を行うことにより、決算書作成についての地域の理解が深まった。</p>	<p>会計担当者、事業担当者の交代時に伴う引継ぎ等がなされていないケースが多く、効率化の妨げとなっている現状。担当変更や、事業変更などの情報を早くキャッチして、サポートすることが必要。</p> <p>30年度決算書が適正に作成できるよう、引き続きサポートしていく。</p>
				<p>当初計画通り、各地域の会計事務レベルに合わせた個別支援が実施された。</p> <p>当初計画通り、包括外部監査指摘事項の改善に向け、区と連携した支援が実施された。</p>	<p>個別支援を行い、信頼関係を築くことで、踏み込んだ助言・指導ができるようになった。それにより、事業担当者等の制度理解が促進し、会計担当者の負担軽減にもつながっている。</p> <p>区と連携し各地域個別の説明を行うことで、概ね地域の理解を得ることができた。</p>	<p>引き継ぎに関しては、作成した会計マニュアルの活用を促すなどし、継承していくことができるよう支援をしていただきたい。</p> <p>適正な書類が整備されるよう、31年度予算・30年度決算に向けて、引き続き個別支援が必要である。</p>	

	○	○	<p>【情報発信支援】</p> <p>電子広報媒体を活用して、地活協の認知度を向上させ、事業への参加者UPに繋げる。チラシや広報物作成のスキルアップ支援、フェイスブックやホームページの記事作成支援や、効果の説明を行い、積極的な広報活動に繋げる。チラシ作成に不得手な地域に対しては、雛形データの提示などを行い支援する。</p>	<p>各地域の状況に応じて積極的な広報活動の支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月度、東都島地域にてチラシ(雛形提示)、HP作成支援 ・8月度、内代地域・西都島地域にてチラシ作成支援(雛形提示) ・8/8(水)中野地域、フェイスブック記事投稿支援 <p>フェイスブック投稿方法のレクチャーや効果的なチラシ雛形の提示など、スキルアップに向けた支援が実施された。</p>	<p>事業担当者に繰り返しチラシ作成や広報支援を行うことにより、告知の必要性についての認識が上がり、スキルの向上に繋がっている。</p> <p>繰り返し具体的な方法を示すことで、担当者のスキルが向上し、告知に対する意識も高まってきている。</p>	<p>まだまだこちらからリマインドしないといけない地域や担当者も多く、引き続き細かい支援を行っていく。</p> <p>担当者の意識を高め告知を習慣化するためにも、引き続き継続的な働きかけを行ってほしい。また、広報内容の充実だけでなく、広報経路の拡大に向けた支援も必要である。</p>
	○		<p>【ミヤコジマ・マチ・ミライ交流会2018】</p> <p>青指、PTA、子ども会と言ったミドル世代を対象として、「防災」「担い手」についての議論を行う場を提供。異種グループ間の交流を促進し、地域の活性化を図る。また、地域公共人材に所属するメンバーを運営側として集め、地域公共人材の周知も行う。最終的には集まった情報や手法を各地域に持ち帰ってもらい、新事業の立ち上げや地域運営の活性化に繋げる。</p>	<p>イベント集客と周知活動開始。まずは、各地域会長にイベント内容を周知、その後各団体の会長から情報を落としてもらう手段で周知活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/9(水)、7/18(水)ファシリテーター担当と事前に当日の企画内容の擦り合わせを行った ・7/13(金)区青指、区PTA会長にイベント趣旨を説明、協力要請 ・7/16(月)子ども会会長に趣旨を説明、協力要請 ・8/7(火)区PT会長集客についての打合せ ・8/21(火)区青指理事会にて周知 <p>当初計画通り、青指・PTA・子ども会に属する対象者にアプローチするなど、事業実施に向けた準備が行われている。</p>	<p>これまで関係の薄かった層へのアプローチには正直手こずってはいるものの、順調に集客は進んでいる。また、参加できなかった区青指、PTA、子ども会への会議出席の機会が増えたことで、まずは、まちセンの認知度向上になった。</p> <p>まちセンとの関係が希薄であった層に対し、丁寧かつ積極的にアプローチが行われた結果、相互の関係づくりに繋がった。</p>	<p>初の試みであるがゆえに、集客方法や当日のイベント運営に試行錯誤している現状。よりスムーズな周知及び集客方法を行う。</p> <p>引き続きイベント実施に向け調整を進め、青指・PTA・子ども会が地活協内でより重責を担うことができるような取組としていただきたい。</p>
	○		<p>【ミヤコジマ・マチ・ミライ交流会2017】</p> <p>2017年度に開催した同交流会に参加者により形成されたコミュニティ「エムノワ」の活動支援を行い、地域へのボランティア参加や事業の参画に繋げていく。</p>	<p>「エムノワ」フェイスブック記事作成支援、団体活動の進捗報告や今後についての打合せを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/10(火)エムノワメンバー打合せ ・8/27(月)エムノワメンバー打合せ <p>現在は「エムノワ」の組織能力の向上が図られている状況であるが、今後は地域団体とのマッチングを積極的に行うなど、地域の中で活躍できるよう支援を行ってほしい。</p>	-	-
	○	○	<p>【出前講座】</p> <p>まちセンによる出前講座の開講。地域の組織運営のスキルアップに向けた支援を行う。地域のニーズにあった講座を開講することで、広報や会計事務などの効率化、また地域公共人材の利用に繋げる。</p>	<p>地域でパソコン塾を開催中。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月度、桜宮地域「パソコン塾」4回開催 ・8月度、桜宮地域「パソコン塾」2回開催 <p>現在は地域から要望のあったパソコンにかかる講座のみであるが、地域のレベルに合わせた支援が行われている。</p>	<p>パソコンが苦手だった方が、フェイスブックやチラシ作成にチャレンジすることで、楽しく参加されるようになり、地域からは評価を得ている。</p> <p>パソコンの苦手な地域担当者に参加を促して、会計書類作成の場を提供した。</p> <p>地域団体にはパソコンの苦手な人が多い中、初歩的なところから講座を開始し、地域の会計や広報の能力の底上げが図られている。</p>	<p>地道な努力が必要ではあるが、広報支援や、会計事務支援に繋がっていく。最終的には地域公共人材を利用して頂き、さまざまな講座を体験して頂く。</p> <p>現在はパソコン講座のみの実施となっているため、今後事業を続ける中で、更なる地域のニーズ把握に努めるなど当該事業が有効なものとなるよう努められたい。</p>

			<p>【企業マッチング】</p> <p>区内企業や団体を中心に企業開拓を行い、企業が取り組む社会貢献事業と地域の活動をマッチングさせる。多様な活動主体との連携・協働の促進を行い、地域の活性に繋げる。地域事業の参画、物資提供や協賛金の協力などニーズに合わせて支援を行う。</p>	<p>区内企業が取り組んでいる社会貢献事業「桜ノ宮カレー食堂」の事業周知を地域に協力してもらうなど、企業と地活協が繋がるきっかけを作った。</p> <p>・7/12(木) 中野地域、桜宮地域にチラシ配下 ・7/23(月) 桜ノ宮カレー食堂試食会取材</p>	<p>子ども対象の無料食堂事業につき、地域からは良い反応が得られ、関係の構築に有効であった。</p>	<p>企業の考える社会貢献の観点と、地域のメリットが合致しないと実現はできないため、両者のニーズを引き出して着地させることが肝心。今年度の地域事業への参画や協賛金の寄付などの支援が見込まれるため、慎重に進めていく。</p>
			<p>当初計画どおり、企業の社会貢献事業と地域活動をマッチングさせるべく精力的に活動している。</p>	<p>まだ企画途中ではあるが、企画内容も手伝って企業と地域との関係をより良いものにするに成功している。</p>	<p>地域と企業、互いの意見やニーズに常に注意を払いながら、他区における成功事例を参考とし、地域と多様な主体とのマッチングを実現されたい。</p>	
			<p>【食サ・喫茶連絡会】</p> <p>社会福祉協議会との連携により、高齢者食事サービス+ふれあい喫茶の合同連絡会を行う。地域間における活動情報の交流の場を設け、事業アイデアの交換や担い手問題の解決に向けた議論を行う。</p>	<p>1月頃の実施に向け、社協との打ち合わせや研修を行った。</p> <p>・7/23(月) 社協、まちセン第一回打合せ ・8/20(月) 社協連携で講師を招き、社協・まちセン職員対象の研修会を開催</p>	<p>社会福祉協議会と連携することで情報交換の場となった。また研修会では、福祉分野を専門とする講師を招き、他の地域の活動事例を紹介いただくなど、スタッフの知識を深めることができた。</p>	<p>連絡会が有効なものとなる様に、引き続きスタッフのスキルアップや社協との連携など綿密に進めていきたい。</p>
			<p>当初計画どおり、社会福祉協議会との連携や、スタッフを対象とした研修を行っているなど、事業実施に向け着実に準備が進められている。</p>	<p>情報交換や合同研修など、社会福祉協議会との連携が密になされることで、相乗効果が期待される。</p>	<p>引き続き社会福祉協議会と連絡・調整を重ね、連絡会を有意義なものとするよう努めてほしい。また、ふれあい喫茶・食事サービス事業のみにとどまらず、他の福祉分野事業についても連携を期待する。</p>	
			<p>【運営委員会支援】</p> <p>規約に基づく適正な運営と、新事業の立ち上げなどに対する運営委員会の活性化の支援を行う。運営委員会マニュアルを活用し適正な会議運営の理解を深める。規約改正、役員や構成団体の変更に伴う正しい議決や議事録の取り方、会議進行をサポート。</p> <p>区役所と連携し、包括外部監査指摘事項の改善に向けて支援を行う。</p>	<p>マニュアルの活用により制度理解を深めた。また規約変更・役員改正の届け出や議決に関する支援、既存事業の見直し、新規事業立ち上げ等の支援を行った。</p> <p>・7/5(木) 淀川地域、規約・役員改正について支援 ・7/10(火) 淀川地域「盆踊り」事業変更と議決方法、スケジュールの指導 など</p> <p>区役所と連携して監事監査にかかる説明を実施。</p>	<p>運営委員会マニュアルが浸透してきたことで、地域から適切な運営委員会の進め方についての問い合わせが増えた。H30年度は役員・規約改正の地域が多いため、実状に基づいた規約の見直しの指導も行っており、規約の重要性の理解が深まってきた。</p> <p>各地域に説明を行うことにより、監事監査についての地域の理解が深まった。</p>	<p>各地域、適正な会議運営に向けて舵取りが行われているが、依然として役員会、連合振興会議で議決を取ったり、地活協単独での会議が開催されていない地域はある。地域とのコミュニケーションをさらに深め、まちセンとして意見を取り込んで頂けることが大事である。</p> <p>監事監査が適正に実施できるよう、引き続きサポートしていく。</p>
			<p>計画通り、マニュアル等を活用しながら、各地域の適正な運営に向け支援された。</p> <p>包括外部監査指摘事項の改善に向け、区と連携した支援が実施された。</p>	<p>規約に基づいた運営を常に働きかけることにより、自主的に健全な運営をなすことへの意識の向上が見られるようになった。</p> <p>区と連携し各地域個別の説明を行うことで、概ね地域の理解を得ることができた。</p>	<p>マニュアルの活用を更に促すなどし、適切な運営が継承できるよう支援を行われたい。また、運営委員会の形骸化や開催に消極的な地域も見受けられるため、開催する意義の浸透も必要である。「地活協＝地域課題に取り組む組織」という意識を醸成するための支援も行っていただきたい。</p> <p>監事監査が適正に実施できるよう、引き続き個別支援が必要である。</p>	
			<p>【地域カルテサポート】</p> <p>区役所と連携し、地域カルテの作成支援を行う。地域課題の認識と長所短所などを取材にて確認。11月頃の完成を目標とし、次年度補助金の検討に役立ててもらう。</p>	<p>まずは、地域の会長にインタビューを行うため取材依頼の文書を送付、9月中旬よりアポ取りを開始。</p>	-	-
			<p>地域に自らの地域の状態を客観視できる資料を提供することにより、埋もれていた地域課題を発見することを目指し活動している。</p>		-	-
			<p>【地域活動協議会認識向上に向けた支援】</p> <p>「都島区地域リーフレット(仮称)」の作成を行う。地活協の認知度と事業への参加者の向上を目的とする。地域カルテと共に、各地域の会長及び役員に対しての取材を行い作成する。9地域会長のトップインタビューと、事業紹介や地域MAPなどで構成し地域紹介を行う。事業の案内も掲載することで、事業への参加者向上に繋げ、また地域内部のボランティアスタッフの意識向上にも繋げたい。</p>	<p>まずは、地域の会長にインタビューを行うため取材依頼の文書を送付、9月中旬よりアポ取りを開始。</p>	-	-
			<p>地域活動協議会の認知度向上を図るとともに各事業の周知活動を行うべく精力的に活動している。</p>		-	-

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	/	/	/	/
(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	スーパーバイザー1名、都島区9地域に対して必要な人材として、業務責任者兼アドバイザー1名、地域まちづくり支援員2名、事務補助員1名で支援を行う。地域の担当については、業務責任者兼アドバイザーが1地域、地域まちづくり支援員2名で8地域のサポートを行った。業務責任者兼アドバイザーは全地域のフォローも担当。事務補助員は基本的に内部サポートを主に従事。	各地域2名の担当制をひいているが、コミュニケーションに必要な地域・案件に応じては3名体制で面談や打合せを行うことで円滑な交渉ができた。事務補助員は事務以外にも、地域事業の取材、フェイスブックの記事投稿やチラシ作成、出前講座の参加等に従事。スーパーバイザーは研修の開催、相談役としてスタッフのサポートを行なった。	7月からの新体制になったことによる不安があったものの、地域事業の取材や会議への参加、出前講座の再開により地域担当とのコミュニケーションの場が増えた。	精算関連の支援や、イベントの企画等に時間を取られたため、下半期は区役所担当課、スーパーバイザー、本部支援員との連携を深めていく。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	スーパーバイザー1名、外部アドバイザー1名、本部支援員4名の他、システムサポートや、HPの作成などのサポート体制。	スタッフ研修 ・7/18(水)スーパーバイザーによるスタッフ研修開催 ・7/24(水)スーパーバイザーによるスタッフ研修開催 ・7/20(金)本部支援員によるスタッフ研修開催 本部サポート ・7月新規体制変更にホームページ作成及び、システム構築など ・本年度施策の進捗管理、共有会議の開催 ・エリアマネジャーの進捗管理訪問(週一回) ・本部支援員とは、日々の業務をメールにて毎日共有、適宜意見交換	スーパーバイザーによる研修を行った。中間支援組織の在り方や使命、地域課題の発掘などについての講習を開催。また、今季のイベントプランニングや、進行や集客についてのアドバイスも貰った。
日常的にセンターと本部が密に連絡をとっており、昨年度役割が不明であったスーパーバイザーや本部支援員が今年度は計画通り活用された。		スーパーバイザーによる研修が行われ、アドバイザーや支援員が改めてまちづくりについて考えるきっかけとなるなど、バックアップ体制が機能しつつある。	引き続きセンターと本部が連絡を密にとり、センターが必要なときにバックアップを受けることのできるよう、体制を強化してほしい。	
(3)区のマネジメントに対応した取組	/	/	/	/

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
地域カルテサポート	区役所と連携し、地域カルテの作成支援を行う。地域課題の認識と長所短所などを取材にて確認。11月頃の完成を目標とし、次年度補助金の検討に役立ててもらおう。	<p>まずは、地域の会長にインタビューを行うため取材依頼の文書を送付、9月中旬よりアポ取りを開始。</p> <p>地域に自らの地域の状態を客観視できる資料を提供することにより、埋もれていた地域課題を発見することを目指し活動している。</p>	<p>—</p> <p>—</p>	<p>—</p> <p>—</p>
ミヤコジマ・マチ・ミライ交流会2018	青指、PTA、子ども会と言ったミドル世代を対象として、「防災」・「担い手」についての議論を行う場を提供。異種グループ間の交流を促進し、地域の活性化を図る。また、地域公共人材に所属するメンバーを運営側として集め、地域公共人材の周知も行う。最終的には集まった情報や手法を各地域に持ち帰ってもらい、新事業の立ち上げや地域運営の活性化に繋げる。	<p>イベント集客と周知活動開始。まずは、各地域会長にイベント内容を周知、その後各団体の会長から情報を落としてもらう手段で周知活動を行った。</p> <p>・7/9(水)、7/18(水)ファシリテーター担当と事前に当日の企画内容の擦り合わせを行った</p> <p>・7/13(金)区青指、区PTA会長にイベント趣旨を説明、協力要請</p> <p>・7/16(月)子ども会会長に趣旨を説明、協力要請</p> <p>・8/7(火)区PT会長集客についての打合せ</p> <p>・8/21(火)区青指理事会にて周知</p> <p>当初計画通り、青指・PTA・子ども会に属する対象者にアプローチするなど、事業実施に向けた準備が行われている。</p>	<p>これまで関係の薄かったの層へのアプローチには正直手こずってはいるものの、順調に集客は進んでいる。また、参加できなかった区青指、PTA、子ども会への会議出席の機会が増えたことで、まずは、まちセンの認知度向上になった。</p> <p>まちセンとの関係が希薄であった層に対し、丁寧かつ積極的にアプローチが行われた結果、相互の関係づくりに繋がった。</p>	<p>初の試みであるがゆえに、集客方法や当日のイベント運営に試行錯誤している現状。よりスムーズな周知及び集客方法を行う。</p> <p>引き続きイベント実施に向け調整を進め、青指・PTA・子ども会が地活協内でより重責を担うことができるような取組としていただきたい。</p>
会計支援	<p>補助金の適正な運用と事務の効率化、会計事務の適正化と透明化を目的とした支援を行う。マニュアルの活用によって、制度理解を深め、効率的な事務処理提案を行う。</p> <p>運営委員会での領収書の正しい取り方や効果検証に関する注意などの一斉周知、事業毎にマニュアルを作成するなどの支援を行う。</p> <p>決算書や財産目録の整備等、包括外部監事指摘事項の改善に向けた支援を行う。</p>	<p>物品購入の注意点、効果検証のレクチャー、源泉徴収手続きなど、前年度の誤りのポイントと併せて地域ごとに指導を行った。</p> <p>・7/3(火)桜宮地域「夏祭り」、物品購入について指導</p> <p>・7/27(金)淀川地域「盆踊り」、事業変更について指導</p> <p>・8/17(金)桜宮地域「盆踊り」効果検証について指導</p> <p>・8/28(火)淀川地域「食事サービス」補助金運用の指導など</p> <p>区役所と連携して決算書の作成等にかかる説明を実施。</p> <p>当初計画通り、各地域の会計事務レベルに合わせた個別支援が実施された。</p> <p>当初計画通り、包括外部監事指摘事項の改善に向け、区と連携した支援が実施された。</p>	<p>運営委員会や、事業説明会に積極的に参加し、会計事務の指導を行うことで、事務効率の向上に繋がった。また、まちづくりセンターの認知度を高めることにもなり、問い合わせも増えてきている。</p> <p>各地域に説明を行うことにより、決算書作成についての地域の理解が深まった。</p> <p>個別支援を行い、信頼関係を築くことで、踏み込んだ助言・指導ができるようになった。それにより、事業担当者等の制度理解が促進し、会計担当者の負担軽減にもつながっている。</p> <p>区と連携し各地域個別の説明を行うことで、概ね地域の理解を得ることができた。</p>	<p>会計担当者、事業担当者の交代時に伴う引継ぎ等がなされていないケースが多く、効率化の妨げとなっている現状。担当変更や、事業変更などの情報を早くキャッチして、サポートすることが必要。</p> <p>30年度決算書が適正に作成できるよう、引き続きサポートしていく。</p> <p>引き継ぎに関しては、作成した会計マニュアルの活用を促すなどし、継承していくことができるよう支援をしていただきたい。</p> <p>適正な書類が整備されるよう、31年度予算・30年度決算に向けて、引き続き個別支援が必要である。</p>
運営委員会支援	<p>規約に基づく適正な運営と、新事業の立ち上げなどに対する運営委員会の活性化の支援を行う。運営委員会マニュアルを活用し適正な会議運営の理解を深める。規約改正、役員や構成団体の変更に伴う正しい議決や議事録の取り方、会議進行をサポート。</p> <p>区役所と連携し、包括外部監事指摘事項の改善に向けて支援を行う。</p>	<p>マニュアルの活用により制度理解を深めた。また規約変更・役員改正の届け出や議決に関する支援、既存事業の見直し、新規事業立ち上げ等の支援を行った。</p> <p>・7/5(木)淀川地域、規約・役員改正について支援</p> <p>・7/10(火)淀川地域「盆踊り」事業変更と議決方法、スケジュールの指導 など</p> <p>区役所と連携して監事監査にかかる説明を実施。</p> <p>計画通り、マニュアル等を活用しながら、各地域の適正な運営に向け支援された。</p> <p>包括外部監事指摘事項の改善に向け、区と連携した支援が実施された。</p>	<p>運営委員会マニュアルが浸透してきたことで、地域から適切な運営委員会の進め方についての問い合わせが増えた。H30年度は役員・規約改正の地域が多いため、実状に基づいた規約の見直しの指導も行っており、規約の重要性の理解が深まってきた。</p> <p>各地域に説明を行うことにより、監事監査についての地域の理解が深まった。</p> <p>規約に基づいた運営を常に働きかけることにより、自主的に健全な運営をなすことへの意識の向上が見られるようになった。</p> <p>区と連携し各地域個別の説明を行うことで、概ね地域の理解を得ることができた。</p>	<p>各地域、適正な会議運営に向けて舵取りが行われているが、依然として役員会、連合振興会議で議決を取ったり、地活協単独での会議が開催されていない地域はある。地域とのコミュニケーションをさらに深め、まちセンとして意見を取り込んで頂けるとことが大事である。</p> <p>監事監査が適正に実施できるよう、引き続きサポートしていく。</p> <p>マニュアルの活用を更に促すなどし、適切な運営が継承できるよう支援を行われたい。また、運営委員会の形骸化や開催に消極的な地域も見受けられるため、開催する意義の浸透も必要である。「地活協＝地域課題に取り組む組織」という意識を醸成するための支援も行っていたきたい。</p> <p>監事監査が適正に実施できるよう、引き続き個別支援が必要である。</p>